

市民コーラスが夢の舞台

あこがれのウイーン

近江八幡混声合唱団訪欧記



サンタダール指揮者

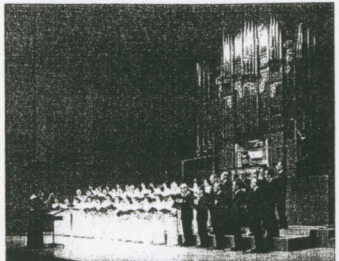
近江八幡混声合唱団(略称「八混」)は昨年六月、オーストリアのウイーンで現地の合唱団とジョイントコンサートを開きました。

近江八幡には幾つもの合唱団がありますが、その中で唯一の混声合唱団として〇〇四年四月に結成され、現在団員は五十七名、女性四十二名、男性十五名で構成されています。

指揮者の大橋久子先生、ピアノの寺嶋泰雄先生の指導で、毎月三回の夜間練習を欠けず、今まで、市民音楽祭や文化祭への参加の他、フマリコンサート等を開いてきました。

平成二十二年五月の安土の文芸フェスティバルでの第五回演奏会では名物のパフ・オルガン演奏の下に合唱し、大変好評を頂き、成功裡に終る事が出来ました。

若い時と違って、平均年齢六十歳を超える私達、二十数曲の歌詞と、難しい音楽を全う出来るのは、かなりの重荷でしたが、中にはカンテグーパー持参の方もいるながらも、楽譜を持たずに同乗する演奏が出来ました。



今回のウイーン公演はその直後から構想し始めたもので、これまで幾度か他の女性コーラスを率いて海外公演してきた指揮者の大橋先生も「これならいける」と確信されたもので

きっかけは、練習会場である中屋町の「酒遊館」ホールの西村美子さん(団員)の御嬢さん、長谷川雪江さんがウイーンに在住され、オペラ歌手として活躍されていることからです。

今回合唱団を率いたウイーン・アカデミー合唱団の指揮者とも懇話し、関係で、近江八幡混声合唱団との合同演奏の話が持ち上がったのでした。

当初は数年先の計画でしたが、団員の年齢を考えると「善い急い」という事になり、直ちに訪欧演奏会実行委員会を立ち上げ、演奏会と旅費の計画を進め、団員による演奏会場の下見・打ち合わせ併せて行いました。



音楽の都ウイーンと呼ばれる土地柄での演奏という事もあり、外国人にも人情を添え「あるさ」メドレーや、純日本のマロデイの「さくら」さくら、そして「お江戸日本橋」宗教曲他を披露しました。

合同曲では「荒城の月」を日本語で、「野はら」をドイツ語で、そして外国でも知られる「春を向いて歩き」等を歌いました。

八混の歌は歌詞が日本語なので、美しい日本の四季の風景や日本人の情愛を理解してもらうため、長谷川さんの協力を得て、ドイツ語に翻訳してもらい、美しい特製パンフレットも会場に配りました。



(3) (昭和32年4月6日第三種郵便物認可)



演奏会では、長谷川さんの流暢なドイツ語での司会が始まり、駐オーストリア日本大使の岩谷雄雄氏のスピーチも頂きました。

ウイーン・アカデミー合唱団の「ウイーン・ワルツ」の演奏に続いて、我が八混が合唱しましたが、「新しうラッパ」でこの団員が全員鮮やかな法被を着て客席の隅を取り囲んで、投げテープをする等、観客の皆さんに大変喜んで頂きました。

そして、演奏会の終りの打ち上げ会は、会場のすぐそばのドナウ川のオープンバーで、互いに片言の英語を駆使しながら交流を深める事が出来ました。

当初の計画では各パートから数名ずつ揃い、少なくとも二十五人位オンステージしたいと思っていましたが、最終的にはサポーターも含み四十一名という参加者になりました。中には重い病気の治療中の方もおり、更に八十歳を超えてもなお、声量のある方も進んで参加して頂きました。



大勢の訪欧団なので、途中色々アップリットもありましたが、旅行社の添乗員さんの優しい気配りと、テキパキした業務遂行のおかげで、旅を満喫する事が出来ました。

旅行ウイーン・マニエ、プラハで二泊、飛行機で二泊の七泊八日の行程で、最初の朝ウイーンに入り、シェンブルン宮殿など市内観光を一通りしてから夕食を取り、その後五つのグループに分かれて、クラシック・オペラ・バレエ・室内楽等、それぞれの会場で「音楽の都 ウイーン」の夜を楽しみました。

有名なウイーン国立オペラ座や、毎年日本でも放映されるニューイヤークンサートの開かれる黄金のホール、プラムスホール他、音楽好きさんには憧れと憧れの会場でのコンサートに、心から酔いしれた次第です。

それにちまして、前夜の十時半に関西国際空港を飛び立ち、途中トルコのイスタンブール経由でウイーン空港に朝の九時到着、十時間半の行程をこなすなか、全員がその夜の演奏会に出かけたそのパワには驚かされました。



二日目はベートーベンやシューベルトが眠る、映画「第三の男」で知られる中央墓地などを見学後、演奏会場のウラニアホールで最終練習に臨みました。

演奏会を無事に終えた四日目の朝には、ウイーンから国際特急列車で一路ラハに向かい、モルダウ川を見下ろす喜望峯のレストランドで、夕食後に皆で飲んだ「見上げてごらん夜の星を」は、それぞれに心地良い達成感もあって、今胸に焼き付いています。



ラハでの二日間の市内観光も、各々がグループに分かれて、さまざまながらも一部の費用を堪能する事が出来ました。

今回のウイーン演奏旅行を通じて、参加者全員の親が深まり、改めて「近江八幡混声合唱団」に入っていて良かったと皆が実感する事ができたように思います。

今回部員より参加出来なかった団員も含めてこれからは「歌って楽しむ合唱団」、観客の皆さんに「体感して歌を唄い続ける」の思いをします。



近江八幡混声合唱団にはまだまだ入会出来ます。(特男性歓迎。毎週第・第二・第三水曜日の午後七時から九時まで、練習会場は酒遊館です。連絡先は団長の山本康弘 0748-3416073) まで。

◆今後の予定・五月十三日(日)第七回フマリコンサート 会場…文化会館小ホール ◆詳細は近江八幡混声合唱団ホームページ <http://www.gk.co.jp/hachikom/> をご覧ください。

文 近江八幡混声合唱団訪欧実行委員会 村西耕爾 写真・絵 同委員会提供

緑あふりて オーストリアへ歌運ぶ 老いに負けじと 夢追いかける (N・K)